安全で働きやすい職場・暮らしやすい社会をつくり出すため
組織強化・拡大を仲間と共に実現し、新生JR東労組の未来を切り拓こう!!

12地本の総団結で職場運動を強化し JR東労組の未来を展望しよう！

中央執行委員長　山口　浩治

組合員・ご家族の皆さん、明けましておめでとうございます。

昨1年間、JR東労組にとって非常に厳しいたたかいを余儀なくされましたが、職場第一線で奮闘していただいたすべての仲間に敬意を表します。JR東労組は第35回臨時大会、第36回定期大会を経て「組合員の信頼回復」「組織強化・拡大」を掲げ、組織存亡の危機を乗り越えるためのたたかいを展開してきました。しかし、まだ道半ばです。私たちは、これまでの教訓からも取り巻く情勢の認識を深め、その中で労働組合としてどのようなたたかいを進めていくのか職場の組合員と共に議論を深めていかなければなりません。

安全で働きやすい職場をつくり出すために

今、日本を挙げてオリンピック・パラリンピックの成功に向けた様々な取り組みが行われています。JR東日本も「東京2020オフィシャル旅客鉄道サービスパートナー」として、スムーズにご利用いただくための情報提供と快適な旅客鉄道サービスの提供を通じて成功に貢献すると表明しています。

私たちは労使の共通認識として「申5号　安全・安定輸送の確保を目指し、職場の不安解消を求める申し入れ」を行いました。安全・安定輸送の確保とサービス品質の向上は労使の共通認識であること、また、試験・昇進・転勤などにおいては組合加入の有無、所属組合で差別はないことを確認しています。

しかし現実は「不当労働行為」や「パワハラ」ともいえるような事象が職場で発生しています。鉄道輸送を担う私たちは、安全を絶対的な価値基軸として日々の業務に取り組んでいますが、その下支えとなる「安心して働ける職場」は必要不可欠です。「安心」には会社のマネジメントが大きく影響します。職場から排除されるべき不当労働行為や、パワハラなどのハラスメント行為に対しては、当事者を組織で包み、組織全体の課題として立ち向かっていきます。

2018年6月29日に「働き方改革関連法」が成立し、2019年4月1日から順次施行になります。残業時間の上限規制、一人1年あたり5日間の年休取得を企業に対して義務化、フレックスタイム制の清算期間（労働時間の調整期間）の3ヶ月への延長など、組合員の働き方に大きな影響が予測されます。今後、36協定への反映や就業規則の変更などに議論を要します。法的規制を盛り込むだけでなく、職場実態を反映させる議論づくりを強化していくこととします。

職場では要員不足が深刻になっています。一方、会社は「変革2027」を掲げ、少子高齢化という厳しい情勢の中でも、会社の持続的成長を遂げていくために新たなステージに向かっており、その具体的な取り組みとして様々な施策が打ち出されています。私たちはJR東労組発足以来「安全・健康・ゆとり・働きがい」を担保して施策に取り組んできました。今後もより深刻化する要員問題に向き合っていくために、新しい技術の導入や仕事の仕組みを変えることによる、効率的な業務運営が提案されることは明白ですが、目指した姿と乖離しているのが職場現実です。私たちは「机上の論理」ではなく「生きた職場の現実」をもとに検証のたたかいを強め、守るべきものを明確にしながら職場に見合った施策をつくり出していかなければなりません。会社は「時間軸」を意識します。否定はしませんが、時間で縛りをかけ職場を振り回すような進め方は許せません。真摯な議論で施策を進めるために、これまで労使で合意してきた「確認メモ」に基づき取り組んでいくこととします。

職場では、安全に関する課題も山積しています。厳しい組織現実ではありますが、事象を正確につかみ出し、原因究明委員会の議論を積み重ねていきます。私たちは技術継承や技能伝承に対して警鐘を鳴らし続けていますが、今までに経験のない事象が起きているのも事実です。現実を掘り下げる力をつけて、原因・背後要因をえぐり出し、再発防止に向けた議論をつくり出しましょう。

18春闘の反省を踏まえ 新生JR東労組を全組合員でつくり出そう

18春闘では「格差ベア永久根絶」を掲げ「確立しているスト権のもと、あらゆる戦術を行使し、全組合員とたたかい抜く」ことを決定しました。具体的には指名スト、非協力闘争をたたかう意思統一を行い、全地本で組合員と議論を重ねていただきました。しかし、非協力闘争の予告以降、労使共同宣言の失効もあり、労使関係の再構築が大きな課題となると共に、残念ながら連合からの支援をいただくこともできず、「指名ストについては避けてください」という指導もあり、原則的なストライキの意義が社会的には受け入れられづらくなっている現実も明らかになりました。19春闘は、昨年の18春闘における確認事項を整理し、諸教訓をもとにたたかっていきます。連合方針を受け、JR総連と共に「JR春闘」を練り上げていくこととします。

平和問題、政治問題について労働組合の課題とは無縁ではないかという声もあります。しかし、平和についても、政治についても多くの「社会的弱者」と言われる方々が犠牲になっています。労働組合は、弱者の声を基にたたかう組織です。JR総連と共に、また他の産別の仲間と共に連帯して声を上げることを通じて、安心して暮らせる社会を目指していきます。

昨年の臨時大会では、向こう2年を展望し、組織拡大・強化を目指すことを確認しました。組合員の絆を深め、組織の強化を通じて新しいJR東労組運動を強化し、組織と組合員への求心力を高めていきましょう。

中央本部は、最先頭で奮闘することを明らかにして年頭のご挨拶とします。今年もよろしくお願いします。

仲間と共に、苦難の道を乗り越えよう!

ＪＲ総連　榎本　一夫 執行委員長

JR東労組組合員の皆さん・ご家族の皆さん、明けましておめでとうございます。

穏やかに新年を迎えたことと思います。

昨年は、JR東労組にとって存続の危機が迫り、あまりにも多くの犠牲と大切な財産（仲間）を失った年でもありました。前本部委員長をはじめとする一部の本部役員と一部地本役員が、組合員の思いに寄り添うことをせず、自己保身ともいえる強引な組合運営と組織指導などによって、組合員の約75%がJR東労組を脱退する事態をつくり出しました。痛恨の極みです。

JR総連と各単組は新生JR東労組本部役員と固く連帯し、苦難を克服していく取り組みを確認しています。その再生の取り組みを前進させようではありませんか。

さて、安倍政治は「国民に圧力」を、「米国に活力」を、の姿勢で、主権者である国民を蔑ろにし、米国の意思と要求を前提にした「政治」を強引に進めています。国会は、安倍政治の下請け機関の状況下に置かれています。その安倍政治の悲願、集大成が9条の改正です。9条を改正するということは平和・人権・民主主義を否定することを意味します。国民を国家の統制下に置き、自由とプライバシーなどをも制限します。JR総連は、国民から平和・人権、民主主義を奪う憲法改悪には断固反対します。そのために、心ある仲間と連帯して憲法改悪を阻止しましょう。

その決意を申し上げて新年のご挨拶とします。本年も宜しくお願いします。

組織の危機！ 平和の危機！ 力を合わせ闘い抜こう!!

JR東労組
本部OB会　古川　健三 会長

JR東労組組合員のみなさんに、2019年新春のご挨拶を申し上げます。

18春闘方針をめぐるたたかいにおいての組織動揺と大量脱退という局面に接し、OB会としてどう動くべきなのか躊躇を余儀なくされました。その間隙を突かれ、「憂う会」など内部矛盾を生み出してしまったことは、本部OB会として心から反省しています。

平和・人権・民主主義を守る砦としてのJR東労組の危機は、強権政治による危機でもあります。ウソと誤魔化しで立法行政が行われていることを、誰もが知っているのに、手が出せない民主主義とは何でしょうか。臨時国会でも議論が空洞化され、本質が明らかにならず、国民を守る法律なのかさえ知らされません。何としても夏の参議院選挙か衆参同時選挙で、国民の賢さを教えなければなりません。連合による野党結集への努力に期待します。

さて、JR東日本グループ経営ビジョン「変革2027」が公表されています。労働力不足を予測して、AI・ロボット化が注目されていますが、最も大事なことは、人間労働の緻密さではないでしょうか。会社の変革に魂を入れることができるのは、人間労働を大切にするJR東労組にしかできません。職場からの挑戦で、12地本の総団結に期待します。

本部OB会も、JR東労組の中間のみなさんと共にたたかい抜くことを誓い、新年の挨拶とします。今年もよろしくお願いします。

反弾圧のたたかいを教訓に 新生JR東労組を全組合員の総力でつくり出そう!!

美世志会　上原　潤一 代表

2019年の年明けにあたり、組合員の皆さんにご挨拶申し上げます。昨年はJR東労組結成から31年目にあたる年でしたが、18春闘の方針の過ちにより危機的な組織状況をつくり出してしまいました。

16年前に発生した国家権力・企業権力による弾圧「えん罪・JR浦和電車区事件」では、脱退者を生み出すことはありませんでした。しかし、18春闘では組合員を悩ませ、35、000名にも及ぶ脱退者を出してしまいました。これは、取り巻く情勢や組織実態を踏まえずに本部方針を職場に押しつけた結果です。現在では、「大敗北」という総括に立ち、新生JR東労組に向けて組合員の皆さんと共に、職場からのたたかいを基礎に前に向かっています。

昨年はこのような組織状況により毎年取り組んでいた「11・1集会」を開催することができず、これまで連帯していただいた方々との意見交換会を行いました。この中では、JR東労組の現状と今後の方向性を訴え、改めて再生に向けての連帯をお願いしてきました。多くの方々から「マスコミ報道などで心配していたが、新生JR東労組に向けて連帯していく」との温かい檄を頂き、16年間の支援・連帯の輪はさらに深まったと感じました。

組織的力量・財政問題など危機的な状況は続きますが、それを突破するのは私たちの奮闘による組織拡大です。16年間培った反弾圧のたたかいを教訓に、新生JR東労組を全組合員でつくり上げましょう!!

今年もよろしくお願い致します。

〝全青年部員が担い、お互いを高め合える運動〟を 力強く推し進めよう!!

ＪＲ東労組本部青年部　福田　潤一 青年部長

青年部員の皆さん！新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

18春闘において、組織混乱ならびに多くの仲間の脱退を生み出してしまったこと、青年部員の皆さんに多大なご迷惑とご心配をおかけし、深くお詫びを申し上げます。

JR東労組青年部は、18春闘において組織目標である「格差ベア永久根絶」に向けて、全青年部員による「格差ベア根絶」総行動」を展開してきました。しかし、ストライキ戦術行使を目的化したが故に、方針貫徹のために職場の声を受け止め議論を押し付け、青年部員の皆さんを引き回してしまいました。そして、JR東労組への「不信」を招くと共に「信頼」を失い、会社による不当労働行為も相まって多くの仲間の脱退を生み出してしまいました。

JR東労組青年部は、職場で日々奮闘している青年部員の声から、18春闘は「大敗北」であったことを総括してきました。自分自身に向き合い、自らの問題点や誤りを認め反省すると共に、ウソをつかずに事実と真実を正しく伝え、職場の仲間たちと議論を重ねています。一方、12地本青年部が総団結し危機的状況を突破していかなければならない時に、春闘妥結から10ヶ月が経過する中で、繰り返し議論をしてきましたが、未だに一部地本青年部と認識の一致ができていません。

JR東労組青年部は、危機的状況である組織の存亡をかけ、全ての運動を「組織強化・拡大」に繋げていきます。私たちは、新生JR東労組運動を創り出すにあたり、職場で日々奮闘している青年部員の声をもとに、自らの価値観を押し付けることなく、議論を積み重ねながら、労働者として〝全青年部員が担い、お互いを高め合える運動〟を推し進めていく決意です。そのためにも、「職場活動とは何か」「青年部とは何か」を再度学び合い、実践していくことが私たちの課題です。

私たちの眼前に立ちはだかっている課題は山積しています。JR東日本が発表した経営ビジョン「変革2027」に基づいた数多くの施策に対して「安全・健康・ゆとり」を担保し、働きがいある職場を創るために向き合っていかなければなりません。制度改正や職場の再編、業務の仕組みが大きく変更される背景には、生産年齢人口の減少や働き方改革等、JR東日本においても例外ではなく、将来を担う青年部は社会の動向にも目を向ける必要があります。

2018年12月14日、名護市辺野古の新基地建設は〝土砂投入〟が実施されました。「戦争の拠点」となる新基地建設工事を強行に推し進めることは、新基地建設反対の意思を、諦めずに訴え続けてきた民意を踏みにじるものであり、断じて認めるわけにはいきません。今一度、JR東労組青年部が平和運動を取り組む意義を丁寧に議論し、「5・15沖縄平和行進」や「ヒロシマ現地学習行動」を職場の青年部員と共に創り上げていきます。

2019年、私たちにとって大変厳しい現実が待ち受けています。しかし、諦めずに未来を見据え、JR東労組青年部の強化・拡大に向けて実践していきましょう。フレッシュな感性で、思い感じたことを発信し合い、明るく、元気よく、今年1年も奮闘していきましょう！